

街角とあなたをネットする暮らしと文化の情報紙

まちかど

● 荏原第一地域新聞 ●

第216号

令和5年(2023)6月発行

発行・事務局

○荏原第一地域センター○

小山3-14-1 (〒142-0062)

TEL 3786-2000

FAX 3786-5385

花めぐり

ドクダミ

梅雨入りの頃、公園や道端でハート形の葉に白い十字の花を見かけます。爽やかな白い花とみられるものは苞で、中心に立つ黄色の穂が花です。

独特の臭気があるため、敬遠されることも多いようですが、ゲンノショウコ、センブリとともに日本の三大民間薬の一つです。古くから生の葉は腫れ物に、また乾燥させてドクダミ茶として利用されています。十の効能があると言われ生薬名は十薬と呼ばれています。

一日本書紀(611年)に「菟田野(うだの)に薬獵(くすりがり)す。」の記載があり、わが国最初の薬獵の記録です。宇陀の野、「阿騎野」を中心に男性は薬効の大きい鹿の角をとり、女性は薬草を摘んだのでしょう。(奈良県宇陀市ホームページより)

いつ?どんな人が?薬としての効能を発見したのでしょうか。好奇心と勇気の人のお陰でしょうか。

(小山一丁目 河原 マサ江)



中原公園にて撮影

が目に浮かびます。(小山二丁目東部町会長・新井 清久)

「この火防稲荷は、火伏(火災を防ぐ)と商売繁盛の稲荷として、ご近所の方に神徳を与えている。さらに今年もすでに半年が過ぎようとしています。暦によると立春(2月4日)のすぐ

翌日が初午の日。このような年は火が高(火災が多い)と言われる。『そう

くれぐれも日々の「火の元にご注意」ください。また、お散歩やお買い物で近くを通られた際は、是非ご参拝され、ご神徳をいただいでください。

(小山四丁目・東 美佐栄)



シリーズ 品川平塚剣友会 少年剣道教育奨励賞受賞

令和4年11月3日、全日本剣道連盟(以後全剣連と称す)より少年剣道教育奨励賞を受賞しました。奨励賞の意味合いは少年剣道の指導面で剣道の底辺を支える草の根運動の団体、組織にその功績を讃えて送られる賞です。受賞の条件が幾つかあり、小・中学生を10名以上有する事、活動が10年以上継続している事、週2回以上の稽古を実施している等があり、所属団体剣道連盟の推薦を頂き、全剣連の選考委員会によって、選考および表彰されるものです。この賞は一生懸命稽古に取り組んでいる子供達へのご褒美です。当剣友会は昭和58年5月に創立され、40周年を迎えます。奨励賞は9月の記念大会に誇りと勇気を与えてくれました。子供達全員の木刀による剣道基本技稽古法の形の演武、若手指導者による日本剣道形演武、試合等充実した大会を目指し、稽古に励んでいます。お借りしております稽古場の荏原平塚学園や品川区には、改めて感謝すると共に、世の中の不安な情勢に負けないように、正しい剣道の心を通じ、子ども達の明るい未来の為に活動していきたいと思っております。

(荏原三丁目 池田 晴夫)



子ども神輿修理



学区の5町会で神輿を持ち寄り、担いでもらい、お祭りの楽しさを知ってもらいました。子ども達は大喜びでした。

そこで5基の神輿が並んだ時、当町会の神輿は他町会に比べてだいぶ傷んでいる事に気付きました。修理をする決断をしました。

浅草の老舗の名店に見ていただいたところ、今ではあまり見られないような細かい彫刻や、金属の細工など、素晴らしい神輿だと言っていました。また神輿の裏側には、昭和30年購入、同60年修理と記されていました。

それから40年弱の令和5年度での修理になります。今では、役員、幹部一同が誇れる自慢の神輿との認識を持ちました。今後30年50年と継承していけますよう、今回完璧な修理をしたと思います。本年度の祭礼には、きれいになった神輿2基を、子ども達が元気に喜んで担いでいる姿が目に浮かびます。

2021年11月、コロナ禍でお祭りができない子ども達の為に、後地小で、

小山四丁目の銀座通りを5メートル程進んだ左手の路地に赤い鳥居(火防稲荷)が見えます。さらに近づいて見ると祠の中に稲荷神の使いであるお狐さんが座っています。創建年代は不明ですが、近所の先人の言い伝えでは、大正12年9月1日に発生した関東大震災で激しい揺れ、建物の倒壊があり、東京・横浜を中心に大火災が発生。

さらに、昭和20年3月の東京大空襲では町が全滅するほどの火災で武蔵小山一面も焼け野原になりました。

そういう状況の中で、火防稲荷の付近一帯は不思議と火災から免れ、家が無事であり、お稲荷さんが守ってくれたと言い伝えられています。

その後、今日に至るまでご近所の方に崇められ、毎年2月に神事が執り行われています。今年も2月17日、二の午の日に三谷八幡神社の大竹宮司のもと、火災や災厄を除くようにご祈禱いただきました。当日は鳥居前に50名あまりの大勢の方が列席し、玉串というお榊を捧げました。大竹宮司様にお話を伺いました。

「この火防稲荷は、火伏(火災を防ぐ)と商売繁盛の稲荷として、ご近所の方に神徳を与えている。さらに今年もすでに半年が過ぎようとしています。暦によると立春(2月4日)のすぐ

御神徳

小山四丁目の火防稲荷



「後地の歴史探訪の集い」

小山二丁目には、後地(うしろじ)という珍しい名前の交差点があります。去る3月5日(日)荏原第一地域センターにて小山二丁目西部町会ご長老4名(平均年齢88歳)による「後地の歴史探訪の集い」を開催致しました。

プロジェクターで古地図や写真を写しながら、ご長老達が生まれた昭和初期の懐かしい田園風景、玉川上水を源流に後地交差点を流れていた品川用水、空を赤く染めた空襲と学童疎開の辛い記憶、戦後の急激な復興と人々の生活の様子など、約2時間半にわたって、まるで昨日の出来事のように熱く語り頂きました。

会場では後地小学校の西川校長先生を始め、参加者60余名がすっかり聞き入り、時空を超えた旅人となりました。

歴史の生き証人であるご長老達のお話は、書物やネットの情報では得られない、本当に貴重で生き生きとした魅力的な世界でした。参加者の皆様からのこの続きをぜひの強いご要望にて、次回開催という事で閉幕となりました。

(小山二丁目西部・石井 一成)